

# アートで湘南を広域に活性化 「湘南国際芸術祭」開催！

湘南で複数のマリナーを所有・運営する株式会社リビエラが主体となった新たな芸術祭「湘南国際芸術祭」が11月10日〜12日に逗子市・リビエラ逗子マリナーなどを会場に開催された。「海からの視点」を大切に、神奈川県三浦から湯河原に至る湘南コーストにアートを点在させ、人流を生み出すことを目指して始まった本芸術祭。開幕に併せ、前文化庁長官の宮田亮平氏による基調講演やトークセッションなど種々の催しも実施された。

鎌倉駅からバスで約12分のリビエラ逗子マリナーをメイン会場とする「湘南国際芸術祭」。アートを通じ、富士山を望む海のあるまち・湘南コースト(三浦〜湯河原)の魅力を広く発信し、広域な地域活性化や環境問題改善につなげるのが狙いだ。

初日には開幕を記念するフォーラムを開催。第一部では、宮田氏が登壇し「芸術は身近なもの」というテーマで約45分間の基調講演を行った。ドイツ駐在時代のエピソードから、東京藝術大学学長や文化庁長官などの要職を歴任した体験までを踏まえつつ、「難しいものを面白く」という自らの理念をユーモアも交えて語った。

宮田氏によるインスタレーションも展示された。さらに、会場からはクルーズ船で別会場への送迎も行われ、大型木造クラシックヨット「シナラー」の非公開放ミュージアムや招待作家13名による「大漁旗アート展」を観覧することもできた。

開幕を記念する特別展示として、リビエラ逗子マリナーでは彫刻家の神戸峰男氏の作品が披露された。《徳川家康騎馬像》を中心に徳川四天王をモチーフとした《徳川四神》、代表作《西の国から》シリーズが一堂に会し、観る者を圧倒した。同会場には、宮田氏の新作《シュプリングエン 月光》や《シュプリングエン エミ》も協賛出品。屋外ではライトアーティスト・伊藤

基調講演に続いて行われた宮田氏、神戸氏、黒岩祐治神奈川県知事によるトークセッションでは、途中から過去に文部科学副大臣を務めた鈴木寛氏も加わった。「海から

「湘南国際芸術祭」は来年以降も同会場を中心に開催される予定。運営に携わったリビエラグループ専務取締役の渡邊華子氏によれば、将来的には「瀬戸内国際芸術祭」をモデルに、自治体や企業との連携を高め、湘南コースト全体広域にアートを展開するほか、海上での作品展示も構想しているという。初開催となった今回の成果を出発点に、この芸術祭が地域に根付いていくことが期待される。



神戸峰男氏による特別展示



湘南の海を一望する会場で講演する宮田亮平氏



トークセッションの様相



会場風景

(宮田亮平《シュプリングエン 月光》)

ら「視点」というテーマを掲げた本芸術祭の意義について議論を深める一方、話題は近年課題となっているオーバーツーリズムや、芸術教育のあり方にまで及んだ。神戸氏が特別支援学校で行ったワークショップで

の実験を紹介し、子どもたちの可能性を引き出す美術教育の重要性を力説すると、聴衆もその話に深く聞き入っていた。

芸術祭の開催にあたっては、菅義偉前首相をはじめ、洋画家の絹谷幸二氏、建築家の隈研吾氏、日本画家の千住博氏、ピアニストの仲道郁代氏からビデオメッセージが寄せられ、その期待の高さを伺わせた。